

インターバンクの声（2017年5月18日）

一週間前には114円台で取引されていた円相場だが、早朝の東京市場で4/25以来となる110円台中盤まで円買い・ドル売りが進んだ。114円台から112円台まで徐々にドル売りが進んできた背景には、低調な米経済指標の発表が続いたこともあるが、昨夜のドル下落は何と言ってもトランプ米大統領の機密情報漏えい疑惑が弾劾にまで進むとの憶測が広がり始めたことが大きい。

FBIコミー長官を解任した際にも米民主党議員から、さすがに大統領権限を越えるのではと指摘されていたが、その背景にフリン前大統領補佐官への捜査を止めるように働きかけがあったとの報道が伝わっては疑惑が高まるのも仕方ない。

大統領弾劾へのプロセスは容易ではないとの見方もあるが、民主・共和党議員はもちろんだが、米国民の民意がどう傾いていくかが重要になるだろう。トランプ大統領が掲げたインフラ投資や税制改革への期待感が後退しているとあってはドル売りも仕方ない部分もあるが、どこかで弾劾後のペイン副大統領の大統領職引き継ぎに目が向き始めれば、必ずしもドル・ネガティブではないのではとの見方もある。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。